

このコーナーでは神奈川県内に現存する、スクランブル調査隊メンバーがかかわったり、探訪した歴史的な建物やまちなみを紹介します。

「日本基督教団鎌倉教会付属ハリス記念鎌倉幼稚園ホール棟」

鎌倉駅西口の御成商店街を海の方へ歩いて行くと由比ヶ浜大通を横切る江ノ電の踏切に出る。道の反対側に大町停留所跡があり、線路を挟んでシンボリックな八角形の建

物が緑の中に見える。この建物が日本基督教団鎌倉教会付属ハリス記念鎌倉幼稚園のホール棟である。日本基督教団鎌倉教会会堂はサロン No. 62 の歴史的建造物探訪 No. 9 で紹介している。

ハリス記念鎌倉幼稚園は、フローラ・ベスト・ハリス夫人の遺志として幼稚園設立を志す教会関係者に献金が寄せられ、1909年(明42)にフローラ・ベスト・ハリス記念鎌倉幼稚園として教会近くの日本家屋を園舎に設立される。1921年(大10)に八角形の平面を持つ園舎を建てたが、関東大震災で全倒壊した。その平面形を受け継いで1925年(大14)に落成献堂されたのが現在のホール棟である。設計者はわからないが、工事請負人は幸田八二郎氏である。幸田氏は日本橋小伝馬上町の人で第二次世界大戦前の日本基督教団浅草教会の設計施工者とも言われている。

1924年(大13)の復興費寄附募集の案内を見る



と外観のイメージが異なる。現在の外観はコーニスを巡らしペディメント

が目立つが、案内の絵ではコーニスもペディメントもない。柱型も見えない。3方に飛び出す保育室上は陸屋根である。現在の保育室上の緩勾配の瓦棒葺は雨仕舞いのための後補と考えられる。全体をまとめる設計者がいなかったのか。

この園舎には大きな特徴が二つある。一つはその平面形である。44尺の正方形4隅を9尺ずつ切り取った八角形の長辺に20尺×9尺の長方形を飛び出させた中心性の高い平面である。中央を少し下げて遊戯室とし、西側に舞台、他の3方に保育室を設けている。当時、八角形の遊戯室を中心とした園舎がいくつか造られている。岡山市の旧旭東幼稚園(中央図書館脇に復元)、帯広市の双葉幼稚園(2013年3月閉鎖)などが現存しているが関連性は不明である。当時の幼児教育が遊戯室を中心とした室内保育重視だったと思われる。平面に合わせて腰折れの方形屋根を架け、採光通風を考えて窓や床下換気口を設けている。内部は中央が高く囲われ感のある居心地良い空間で、外部は中央への上昇感を感じる印象的な外観である。



もう一つは、工法である。鎌倉の最初期の鉄筋コンクリート造一部鉄骨造と言われているが、現在の工法と異なり、鉄骨で構成した構造体の外側にL型コンクリートブロックを積み、内側に鉄筋を組んでコンクリートを打設したと思われる。当時コンクリートブロック造の研究が盛んだったが詳しく知らない。震災後の復興建物に採用された経過や技術的背景がわかると面白いと感じた。

改修が度々行われているが、2階には当初のスチールサッシが現存するなど貴重な建物である。調査に参加すると大変だが、知ることが多い。

スクランブル調査隊・有里公徳

日本基督教団鎌倉教会附属ハリス記念鎌倉幼稚園
ホール; 鎌倉市景観重要建築物等指定6号(非公開)
所在地; 神奈川県鎌倉市由比ガ浜 2-2-33
ホームページ; <http://www.harris-yochien.jp>